

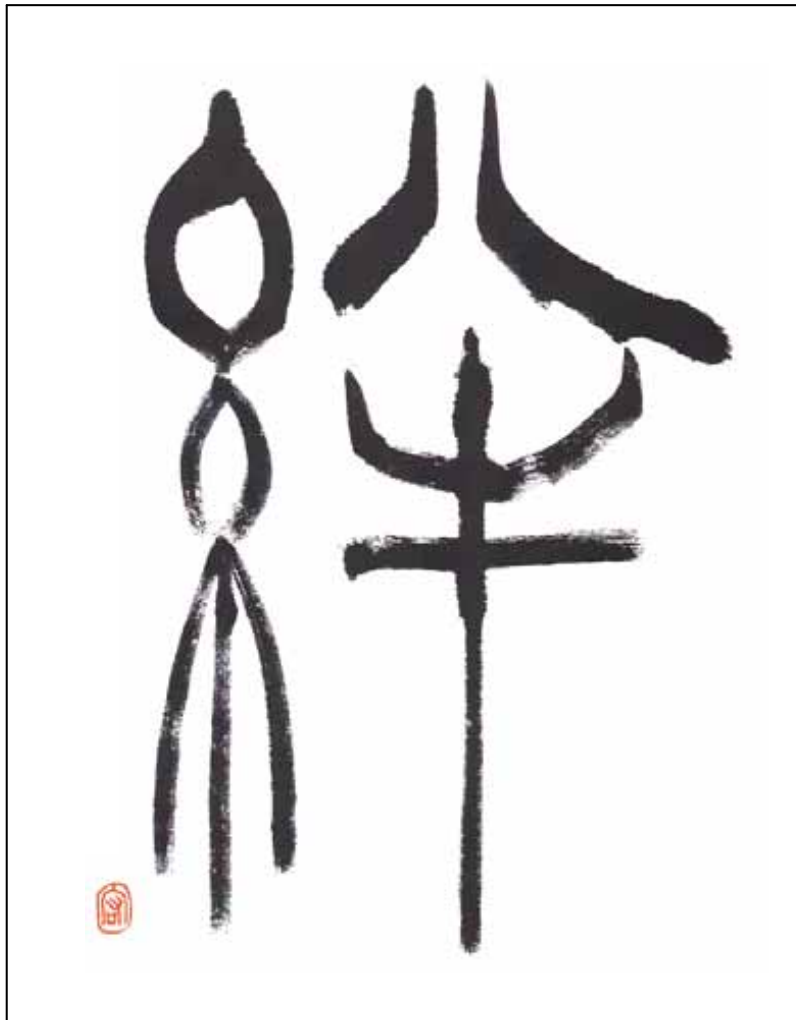
公益社団法人 宮城県生活環境事業協会



会報

No. 5

平成24年1月15日



「絆」 杉山 楽水 書

発行 公益社団法人 宮城県生活環境事業協会

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町2-5-15

事務局

TEL (022) 783-8070 FAX (022) 231-2779

浄化槽法定検査センター

TEL (022) 231-2755 FAX (022) 236-2715

E-mail: soumubu@m-seikatsukankyo.or.jp (総務部)

E-mail: kensabu@m-seikatsukankyo.or.jp (検査部・事業部)

Contents

－ 主 な 内 容

新年を迎えて	公益社団法人宮城県生活環境事業協会 会長 佐藤 佑	3
ふるさと宮城の再生に向けて	宮城県知事 村井嘉浩	4
新年を迎えて	- 各地区連絡協議会長からの挨拶 -	5
東日本大震災の復興に向けての全浄連提言		
「復興事業における新しいまちづくりは浄化槽で整備」の説明会を開催		7
日本環境保全協会会員による災害支援活動		8
《報告》		
第25回全国浄化槽大会開催		8
第25回全国浄化槽技術研究集会開催		9
日本環境保全協会		
北海道・東北ブロック協議会 第17回総会 開催		9
日本環境保全協会		
平成23年度合同役員会議 香川県大会 開催		9
《協会だより》		
会議		10
浄化槽維持管理技術検討会の被災地視察について		11
<お知らせ>東日本大震災被災地域における浄化槽に係る		
講習会修了証書等の無料再交付について		11
環境フェア		12
《法定検査センターだより》		
平成23年度上半期 法定検査の状況について		13
第33回全国浄化槽行政担当者研究会の報告を終えて		13
<研究報告>合併処理浄化槽における消毒効果の確認		14
会員の動き		16
訃報		16
今後の会議等スケジュール		16
事務所復旧工事について		16



新年を迎えて

公益社団法人 宮城県生活環境事業協会
会長 佐藤 佑

平成24年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員をはじめ関係皆さまには、平素より当協会の事業推進につきまして格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、日本環境保全協会をはじめとする関係団体の全国の皆さまから、現在まで引き続き本当にたくさんのご支援をいただいておりますことに、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。特に、沿岸部の多くの会員事業所、し尿・ごみ収集車両が津波により被害を受け活動が困難な中、たくさんの支援物資、車両等をご提供いただいたことは私どもにとって本当に大きな力となりました。ありがとうございました。

早いもので震災から10ヵ月が経とうとしております。昨年10月には「宮城県震災復興計画」が策定され、11月には国の平成23年度第三次補正予算が成立するなど、復興に向けた動きがやっとはっきりと見えてまいりました。これらに基づき各方面での取り組みが進められておりますが、被災地では震災廃棄物の処理をはじめとする多くの課題がまだまだ山積みでございます。協会といたしましても、常に会員の皆さまの声をお聞きしながら、少しでも早い復興実現に向けて協力してまいります。

上部団体の(社)全国浄化槽団体連合会においては昨年9月、東日本大震災からの復興に向けての提言「復興事業における新しいまちづくりは浄化槽で整備」が作成されました。この提言は、新しいまちづくりにさまざまなメリットをもつ浄化槽を活用していただけるように作成されたもので、当協会もこの提言を活用しながら、浄化槽の普及を積極的に進めてまいりたいと思っております。

また、同連合会では、現在、万が一の大規模な災害した場合に速やかに対処できるよう、全国の会員や地方公共団体、浄化槽関係者等を対象とした「大地震等緊急時対応マニュアル」を作成しております。当協会といたしましても、先の震災で経験したこと、学んだことをしっかりとお伝えできるよう、このマニュアルの作成に積極的に協力しております。震災を教訓として、私どもの体験が全国各地、各方面における今後の防災活動や緊急時の対応に生かしていただけるよう、このマニュアルの作成はもちろん、さまざまな活動を通じてご協力をしていきたいと考えております。

昨年は震災からの復旧・復興を第一に考え、例年実施してございました協会事業のいくつかを取りやめとさせていただきます。本年は、復旧・復興に関連して生じる廃棄物や浄化槽等の問題、被災会員事業所の支援に最優先で取り組んでいくことはもちろんでございますが、普及・啓発、研修事業等の従来からの協会事業も積極的に進めてまいりたいと思っております。

おかげさまで、昨年末には被災した協会事務所内の修復工事も終わり、新しい年を迎えることができました。協会役職員一同、気持ちも新たに一丸となり事業を進めてまいりたいと思っておりますので、本年もより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、明るい話題の多い良い年となることを願い、新年のご挨拶とさせていただきます。



ふるさと宮城の再生に向けて

宮城県知事 村井 嘉浩

公益社団法人宮城県生活環境事業協会の方々には輝かしい希望に満ちた新年を健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、浄化槽の法定検査業務をはじめ、適正な維持管理に向けた普及啓発など公共用水域の保全に尽力され、宮城の生活環境の維持や公衆衛生の向上に大きく貢献いただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、昨年3月11日に東日本大震災が発生してから9カ月余りが経過しました。

この間、全国の皆さまからの多大なるご支援とご協力をいただきながら、県民の安全・安心の確保や社会基盤の復旧、産業活動の再開に向けた支援などに懸命に取り組み、復旧・復興に向けて着実にその歩みを進めてまいりました。

貴協会並びに会員各位におかれましては、発災直後からし尿処理など、生活環境の維持及び被災地の復興に向けて、今なおご尽力いただいておりますことに対し、重ねて感謝申し上げますとともに、これからもご助力を賜りたく存じます。

しかしながら、震災による爪痕は依然として大きく、今もなお不便な生活を余儀なくされている方が大勢おられます。その方々が早期に生活再建を果たすことができるよう、復興に向けた取り組みを一段と加速していかなければなりません。

県では、昨年10月に、県議会の同意を得て、今後10年間の復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を策定いたしました。県内全域に甚大な被害が発生していることから、復興達成の目標年度を平成32年度と定め、全体の10年間の「復旧期」、「再生期」、「発展期」の3期に区分し、「復旧期」の段階から再生期、発展期に実を結ぶための復興の「種」をまき、宮城の復興に結びつけます。

この計画には「災害に強く安心して暮らせるまちづくり」、「県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興」など5つの基本理念とともに、緊急対応が必要な事項や県政全般について分野別に復興の方向性を示すなど、未曾有の大災害からの復興を成し遂げるために必要な各種の取り組みを掲げました。

今後は、この計画に基づき、復興に向けた取り組みを一層推進してまいります。県政の停滞を招くことのないよう、県民の皆さまに必要な不可欠なサービスを安定的に供給し、事業の着実な実施に配慮しながら、事務事業全体について大胆な見直しを行い、可能な限り財源と人材を復興事業へ集中させ、重点的に取り組んでいきます。

復興を支える財源の継続的な確保の問題をはじめ、真の復興を成し遂げるまでには、数多くの困難が待ち受けていることと思います。しかし、共に力を合わせて歩んでいけば、必ずやその困難を乗り越えていくことができるものと確信しています。

この新たな1年を「飛躍の年」と捉え、県民の皆さまとともに、ふるさと宮城の再生とさらなる発展に向けて全身全霊を傾けながら取り組んでいく所存です。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

仙台地区連絡協議会 会長 阿部 久義

新しい年にあたりご挨拶を申し上げます。

旧年3月11日の東日本大震災により、甚大な被害を受けられた会員の皆さまに、心からあらためてお見舞い申し上げます。

当協会は、全国の同業者をはじめ各方面の多くの皆さまから、心温まるご支援ご援助を賜り感謝いたしております。

一日も早く、との願いから、復旧・復興に一生懸命頑張っておられる会員の皆様には、ただただ敬服するのみであります。大量に発生した瓦礫の処理の遅れが、復旧・復興の足かせになっているような気がしてなりません。

復旧・復興は道半ばですが、会員皆々様の努力が報われ、一日も早い時期に大きな花となり、実となり、素晴らしい街が誕生することを願っております。

会員の皆様様に幸多かれとご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

県南地区連絡協議会 会長 阿部 清

明けましておめでとうございます。

昨年は夢にも思わなかった大震災に見舞われ、甚大な被害を受けました。

震災当初は電気・水道・電話が使えず、道路も寸断し、燃料も不足し、大変な思いをいたしました。このような天災は何百年に一度、千年に一度とは言うものの、今後も災害に対しては十分な備えが必要だと思います。

津波によって多くの方々が被災し、大変な日々が続いています。宮城県、そして東北が復興するまでには長い年月がかかると思われますが、なんとか苦境を乗り越えて、以前の安らかな生活に戻れるようお願いいたします。

石巻地区、気仙沼・南三陸地区はもとより、県南地区の沿岸部も震災により多数の企業、民家が津波被害を受けました。また、公共下水道の大きな被害、浄化槽も浮上や地面からの露出、ろ材が割れるなどの被害もありました。浄化槽維持管理契約をしている件数の1/3以上が被災してしまい、経営にも大きな影響がでている事業所もございます。

しかしながら、各市町においては他県からの応援もいただきながら、地元業者が一日も早い復旧・復興を目指し、急ピッチで作業を進めております。

新年度も課題がたくさんでてくると思いますが、希望を持って立ち向かって参りたいと思います。

塩釜地区連絡協議会 会長 鈴木 文夫

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

また、昨年の東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

私共も営業所を津波に襲われ建物や機械に甚大な被害を受けましたが、皆様のお陰をもちまして、なんとか新春を迎えることができました。

誠にありがとうございました。

今回ほど、会員そして組織の大事さを痛感したことはありません。これまで以上に今後は地区協議会を始め、会員の皆様にお応えいたすよう努力したいと存じます。

今後とも倍旧のお引き立てをお願い申し上げます。

皆様の会社の発展、そして社員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

石巻地区連絡協議会 会長 佐藤 佑

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、3月11日の東日本大震災による地震や大津波により、多くの会員の皆様方が被災されたことに、心よりお見舞い申し上げます。

石巻地区連絡協議会は、各会員の皆様を回り被災状況を確認するとともに、支援車両やお見舞い等、協会、また全国各地からの支援協力に対して対応してまいりました。

まだまだ時間のかかる復旧・復興事業ですが、会員の皆様と連携して、石巻の再生に協力していきたいと考えております。

今年も皆様のご健康とご発展をお祈りするとともに、石巻地方の復興に向けて努力してまいります。

大崎地区連絡協議会 会長 佐藤 政志

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかで希望に満ちた新春をお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は未曾有の大地震・東日本大震災の発生により被災されました、会員皆様方に謹んでお見舞いを申し上げます。

本年も引き続き被災され津波による甚大な被害を受けた沿岸地域の会員方々の復旧・復興を願い、協会長を中心に会員一丸となり支援することが最優先かと思っております。

当地区でも被災により様々な諸問題はありますが、生かされた事に感謝し微力ではありますが、支援体制を整え活動してまいりたいと思っておりますので、皆様のご支援とご協力お願い申し上げます。

沿岸地域の皆様のご健勝を心からご祈念いたします

気仙沼・南三陸地区連絡協議会 会長 佐々木安人

昨年の東日本大震災、心よりお見舞い申し上げます。

当連絡協議会会員も、半数以上の事業所が被災いたしました。家屋流出、全半壊、また家族を亡くした方など、甚大な被害を被った方々が多くおられます。

震災直後には、事業協会及び協会会員の皆さま方から早速お見舞いや物資、車両等の支援をいただき本当にありがとうございました。あらためて御礼申し上げます。

震災後に仮設住宅の建設が始まり、気仙沼・南三陸地区には約 270 基の浄化槽が設置されました。当連絡協議会は気仙沼市、南三陸町と浄化槽の点検業務を 23 年度分として一括契約をし、来年度以降も契約予定であります。会員各社の管理基数が大幅に減少しているところから、当協議会が少しでもお役にたてたのではないかと考えております。

昨年の漢字一文字は「絆」でした。今年も皆様「絆」をより深めながら、復興に邁進いたしまし
よう。

東北地区連絡協議会 会長 清野 一久

新年あけましておめでとうございます。

平成 24 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、こうして新しい年を迎えることができました事に素直に感謝致します。そして何よりも東日本大震災直後から各方面より多大な支援や激励等を頂戴致しましたご厚情に対し心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は世界各地で大災害が発生し、多くの犠牲者と悲しみに包まれた現地の様子を見るたびに、自然の驚異に人間の無力さを感じさせられました。

しかし、こうした厳しい状況の中でも、日常的な交流の中から地域社会の絆を改めて感じる事もできました。個人や自治体でできることには限りがありますが、困難に直面した時、心が折れそうになった時、皆さんと心をつなげて、手を取り合い、気を緩めることなく、常に積極的に業務に取り組んで参りたいと思っております。

地域の皆さんの生活を直接支えていくのが我々の役割だと思っておりますので、今一度皆様に更なるご協力をお願い致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

最後に、東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災の復興に向けての全浄連提言 「復興事業における新しいまちづくりは浄化槽で整備」 の説明会を開催

昨年の「東日本大震災」を機に、(社)全国浄化槽団体連合会に会長直属の「震災対策特別委員会」が設置され、提言、要望書その他が取りまとめられています。

そのさきがけとして、「東日本大震災の復興に向けての提言『復興事業における新しいまちづくりは浄化槽で整備』」が作成されました。

この提言は、県や市町村に対して、新しいまちづくりは浄化槽で整備することが、早期の復旧・復興や地域環境を守る意味でも、県市町村の財政問題からも肝要であることを訴えているものです。(下に提言部分のみを抜粋。)

(社)全国浄化槽団体連合会主催のこの提言に関する説明会が、平成23年9月12日(月)、当協会会議室において開催されました。

説明会には、(社)岩手県浄化槽協会、(社)福島県浄化槽協会、当協会から会長、副会長をはじめ16名が出席し、(社)全国浄化槽団体連合会の油谷清次専務理事、中川良男参与から提言の主旨や内容について、詳しくご説明をいただきました。



これを受け、9月23日(木)に当協会会議室において、県内7地区の連絡協議会会長を対象とした当協会主催の説明会を開催し、この提言を活用いただくようご説明いたしました。

なお、この提言についてまとめられた詳しい冊子は当協会にもございます。

ご希望の方には無料でお配りしておりますので、事務局までご連絡をお願いします。



提 言

新しいまちづくりにおける生活排水事業では、速やかに整備ができ、人口減少にも対応が可能で、コストミニマム化が実現できる個別処理を選択する。

人口密度が1ヘクタール40人以上である区域、公共施設(市役所や学校、病院、老人ホーム等)などが同一地区内に多数ある区域では集合処理を選択する。この場合も、集合処理では、人口密度の低下は料金収入の減に直結し「持続的な運営管理」に大きな影響を及ぼすため、都市計画等で整備済地域における人口減少を政策的に防止できる地域に限定する。

災害時の緊急避難場所については、危機管理の観点から、避難者の受け入れ定員に余裕を見込んだ規模の浄化槽を整備する。

応急仮設住宅に設置した浄化槽は、その目的を終えた後は「まちの復興事業」にフレキシブルに活用する。

日本環境保全協会会員による災害支援活動

(社)東京環境保全協会 青年部
(社)北海道環境保全協会 青年部
(社)山形県水質保全協会 青年部

平成23年9月11日(日)、(社)東京環境保全協会、(社)北海道環境保全協会、(社)山形県水質保全協会の青年部の皆さまに当協会事務局も加わった35名が石巻市においてボランティア活動を行いました。

これは災害復興支援活動のひとつとして(社)東京都環境保全協会青年部が企画したもので、これに3協会も加わり、復旧の遅れている石巻市の旧牡鹿町大原浜においてガレキ撤去等の作業を行いました。

また、前日には石巻市内の災害廃棄物の処理状況、仮置場等を視察し、(協業)石巻浄化槽管理センター色川雅夫事務局長、(有)日本清掃総業佐藤清和取締役からは、被災時の状況やその後のし尿収集運搬への対応状況等について報告をいただきました。

二日間の活動を終えて、震災からちょうど半年が経過したにもかかわらず、まだまだ厳しい被災地の環境を改めて認識させられました。



報 告

第25回全国浄化槽大会 開催

昨年の9月30日(金)、東京都千代田区の東京會館において第25回全国浄化槽大会が開催されました。10月1日の「浄化槽の日」を記念して毎年開催されているこの大会には、全国から浄化槽関係者が出席。挨拶、業界の功労者に対する表彰に続いて、以下の浄化槽適正整備推進決議が採択されました。

- 1 美しい河川・湖沼・海と快適な生活環境を子孫に伝えるため、優れた水処理能力を持ち、「建設コストが安く」、「建設期間が短い」極めて効率的な施設である浄化槽を、地域社会により一層積極的に啓発するよう努めよう。
- 2 地域社会の理解と協力のもと、浄化槽の整備を促進するとともに、単独処理浄化槽の廃絶に向け、既設単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換する運動を強力に推進しよう。
- 3 生活環境基盤施設としての重要性に鑑み、生活排水処理基本計画の早期見直しによる「浄化槽整備区域の拡大」を実現し、浄化槽整備事業、浄化槽普及啓発事業、特に浄化槽市町村整備推進事業に対する行政的・財政的措置の拡充強化を実現しよう。
- 4 生活環境保全、公衆衛生向上のため、浄化槽の適正な設置、保守点検・清掃及び法定検査を推進するとともに、技術の開発研鑽向上に努め、浄化槽に対する地域社会の期待に応えよう。

また、式典終了後には一般社団法人管路診断コンサルタント協会会長の村岡基氏による記念講演「浄化槽システム：これを支えるより良い『しくみ』とは？」が行われました。

第 25 回全国浄化槽技術研究集会 開催

昨年(水)の 10 月 12 日(水), 13 日(木)の二日間, 財団法人日本環境整備教育センターが主催する第 25 回全国浄化槽技術研究集会が, 茨城県土浦市の「土浦市民会館」, 「ラ・フォレスト・ディ・マニフィカ」において開催されました。

初日の本大会「全国浄化槽技術研究集会」では, 式典終了後に, 東京大学環境安全研究センターの山本和夫教授による特別講演「東日本大震災から得られた教訓と今後の汚水処理のあり方について」が行われました。

その後, 本大会のプログラムに組み込まれる形で開催された「浄化槽検査員研究会」と「浄化槽行政担当者研究会」では, 行政報告に続いて「東日本大震災における浄化槽等の被害状況報告と課題の整理」をテーマとする情報提供が行われました。東日本大震災で大きな被害を受けた 4 県の協会(社)岩手県浄化槽協会, (公社)宮城県生活環境事業協会, (社)福島県浄化槽協会, (社)茨城県水質保全協会)から, それぞれの被害状況等についての報告が行われ, 当協会からは検査部の吉田恵也検査第一課長補佐が発表を行いました。

また, 二日目の「研究発表会」は 2 会場に分かれ, 合計 18 課題の発表が行われました。

来年度の「第 26 回全国浄化槽技術研究集会」は岩手県盛岡市で開催される予定となっています。

日本環境保全協会 北海道・東北ブロック協議会 第 17 回総会 開催

昨年(木)の 7 月 28 日(木), 秋田県仙北市の「ホテルタザワ」において日本環境保全協会北海道・東北ブロック協議会第 17 回総会が開催されました。

平成 23 年度の事業計画や収支予算等の議案が原案通り承認され, 任期満了に伴う役員の改選では, 当協会の佐藤佑会長がブロック協議会会長に再任されました。

また, 総会終了後には「一般廃棄物処理業に係る諸情勢について」と題して日本環境保全協会の阿久津民和専務理事にご講演をいただきました。

日本環境保全協会 平成 23 年度合同役員会議 香川県大会 開催

昨年(木)の 11 月 10 日(木), 香川県高松市の「全日空ホテルクレメント高松」において日本環境保全協会平成 23 年度合同役員会議・香川県大会が開催されました。

廃棄物事業関係, 東日本大震災復興支援関係, 浄化槽関係等の議事に続いて大会決議が採択されました。

《 決 議 》

1. 廃棄物適正処理・安心安全確保を根本理念に事業発展・開拓・拡充!
2. 災害緊急時の廃棄物の適正処理体制を堅持・強化徹底!
3. 一般廃棄物処理業者の積極・的確なりサイクル事業対応推進!
4. 廃棄物処理法遵守徹底! 適正契約確保! 入札導入阻止!
5. 地域環境保全に日夜貢献! 不要・不当な新規委託・許可阻止!
6. 合特法適用推進! 転換事業獲得・経営安定化に全力傾注!
7. 浄化槽普及促進! 適正清掃・保守点検・検査体制の強化推進!
8. 不断の社会使命に応え盤石の環境総合企業集団へ会員組織連携強化!

その後, 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 山本昌宏課長による特別講演「環境省の東日本大震災への対応について」が行われました。

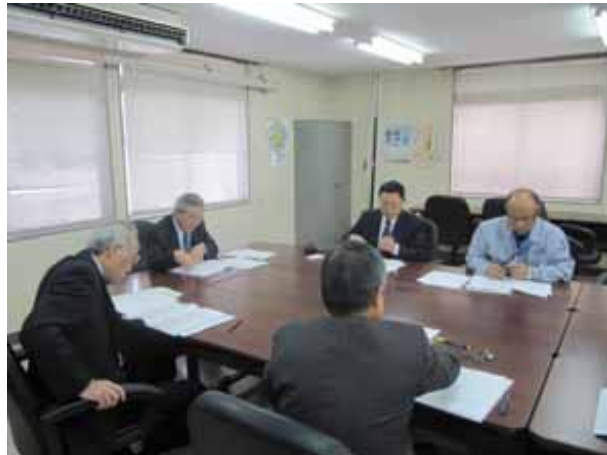
また, 最後に当協会 佐藤佑会長が壇上に立ち, 震災に対する日本環境保全協会本部・会員の皆さまからのご支援にお礼を申し上げるとともに, 震災直後の被害状況やし尿・ごみ収集への対応, 仮設トイレの問題点等についての報告を行いました。

会 議

三役会

平成23年度第2回三役会

1. 開催日 平成23年11月24日(木)
2. 場 所 協会会議室
3. 議 題
 - (1) 平成23年度第2回定期理事会に付すべき議案について
 - (2) 今後の協会の運営等について
 - (3) その他



理事会

平成23年度第2回定期理事会

1. 開催日 平成23年11月29日(火)
2. 場 所 協会会議室
3. 議 題

審議事項

 - (1) 平成23年度中間事業報告及び中間収支決算について
 - (2) 平成23年度第1次補正予算(案)について

報告事項

今後のスケジュールについて



浄化槽法定検査委員会

1. 開催日 平成23年9月20日(火)
2. 場 所 協会会議室
3. 議 題

審議事項

委員長及び副委員長の選任について

報告事項

 - (1) 平成22年度浄化槽法定検査の状況について
 - (2) 「浄化槽処理水質の統計解析と現場調査からの現状把握」について
 - (3) 平成23年度東日本大震災浄化槽被害状況緊急調査(宮城県)業務報告書について

長谷川信夫委員長(東北大学名誉教授)
 須藤隆一副委員長(環境生態工学研究所代表)
 が再任されました。

浄化槽水質検討委員会

1. 開催日 平成23年9月26日(月)
2. 場 所 協会会議室
3. 議 題

審議事項

 - (1) 委員長及び副委員長の選任について
 - (2) 浄化槽放流水質の改善方法について

報告事項

平成23年度東日本大震災浄化槽被害状況緊急調査(宮城県)業務報告書について

須藤隆一委員長(環境生態工学研究所代表)
 江成敬次郎副委員長(東北工業大学教授)
 が再任されました。

浄化槽維持管理技術検討会の被災地視察について

昨年12月6日(火),浄化槽部会澁谷侑也部会長の
ご案内で、浄化槽維持管理技術検討会による津波被災
地の視察を行いました。当日は実行委員の小松鈴三委
員長をはじめ5名の委員が参加し、午前10時、集
合場所である(協業)石巻浄化槽管理センターを出発、
視察を終えて午後3時、同所に戻りました。

視察後、同所会議室をお借りして東日本大震災をめ
ぐる検討会のミーティングを部会長同席のもと行い
ました。席上、委員長より、県内浄化槽の被害及び復
旧状況と今後の課題について報告するための資料の
とりまとめを今年度中に行い、部会に提出する方針が
示されました。

視察の行程

旧河北町・大川小学校 旧
雄勝町・雄勝町病院と同所浄化槽
伝統産業会館 女川町・町営野球場
の3階建て仮設住宅と同所浄化槽
町立病院 町内の水没地帯 旧
石巻市・渡波～魚町～門脇小学校～日和
山公園

「 」は(協業)石巻浄化槽管理センター



左から熊谷委員、富樫委員、佐藤会長、小松委員長



左から木村委員、田手 MDT 部長、澁谷部会長、由利副委員長
(左の建物は、雄勝町病院の浄化槽)

《 お 知 ら せ 》

東日本大震災被災地域における浄化槽に係る 講習会修了証書等の無料再交付について

(財)日本環境整備教育センターでは、東日本大震災により被災された方々への支援として
浄化槽に係る講習会修了証書等の無料再交付を行っております。

対象は、同センター主催の講習会の修了証、管理士証及び受講修了証明証等を地震、津波
等で失った方で、宮城県内はすべての市町村が対象地域となっております。(期限：平成 24
年3月末まで)

詳しい内容については同センターのホームページをご覧ください。当協会までお問い合
わせください。(申請書の様式はホームページからダウンロードできます。)

(財)日本環境整備教育センター ホームページ内

「東日本大震災被災地域における浄化槽に係る講習会修了証書等の無料再交付について」
<http://www.jeces.or.jp/Ctrl/news/whatsnew/4E8A9A0833/>

環境フェア

3つの市町の産業祭りに参加し、浄化槽の構造や処理の仕組み、水環境の大切さ等についてPRさせていただきました。

2011 登米市産業フェスティバル

- 1.開催日 平成23年10月23日(日)
- 2.会場 登米市迫体育館
- 3.協力 (有)きよの清掃センター
- 4.内容 浄化槽ミニモデルの展示、顕微鏡による微生物観察、パネル展示、水環境クイズ



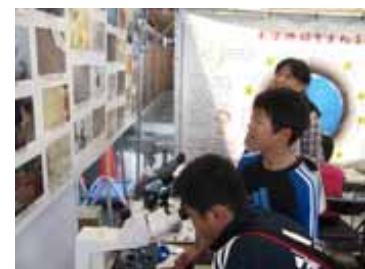
第8回 蔵王町産業まつり

- 1.開催日 平成23年10月23日(日)
- 2.会場 蔵王町ふるさと文化会館前
- 3.協力 フジクリーン工業(株) 東北支店
- 4.内容 浄化槽カットモデルの展示、浄化槽微生物VTR上映、浄化槽設置相談コーナー、パネル展示



2011 栗原市産業まつり

- 1.開催日 平成23年10月29日(土)
30日(日)
- 2.会場 栗原市栗駒岩ヶ崎 馬場通り
- 3.協力 フジクリーン工業(株) 東北支店
- 4.内容 浄化槽カットモデル・ミニモデルの展示、顕微鏡での微生物観察、パネル展示、水環境クイズ



平成23年度上半期 法定検査の状況について

平成23年度上半期の法定検査実績は、法第7条検査が629基、法第11条検査が20,778基でした。図-1に平成23年度上半期判定の状況、図-2に7条検査における型式別の設置内訳を示しました。

図 1 平成23年度上半期判定の状況

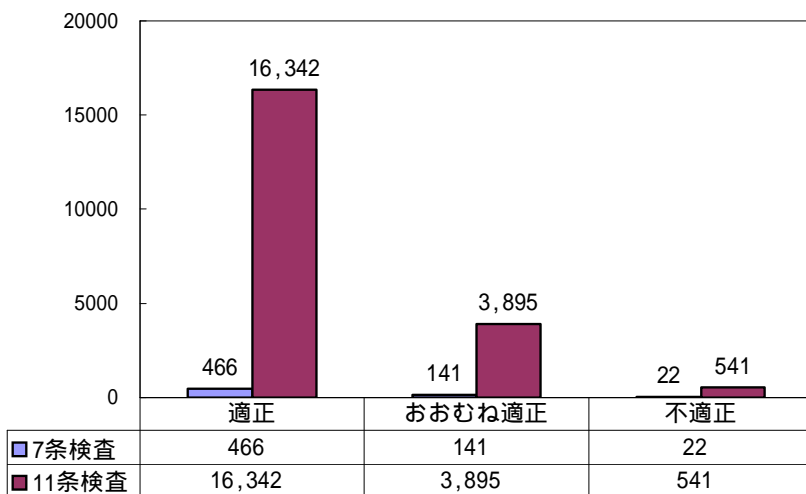


表-1 上位3事例(不適正)

	事例	基数
7条検査	消毒剤無し	5
	タイマーユニット故障	3
	配管未接続・管渠漏水・逆洗装置未稼動・水位の上昇	2
11条検査	3回連続BOD・透視度共に不可	108
	槽本体の漏水	80
	土砂の流入	77

図 2 7条検査における型式別の設置内訳

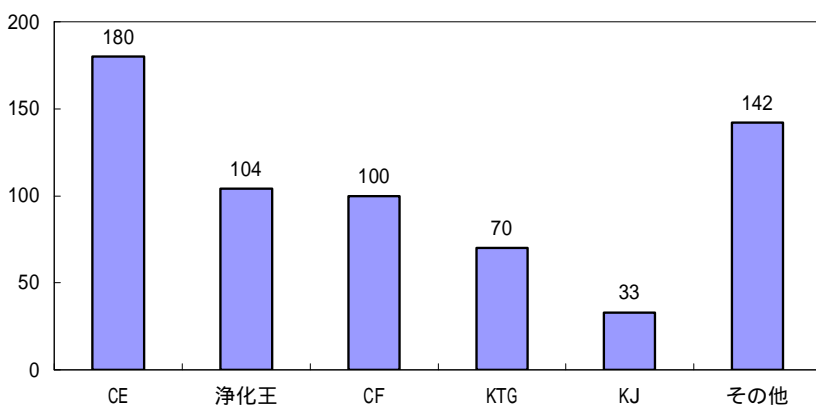


表-2 その他の型式

内訳	
MCP	CXN
CRX	VR
FCS	TRB
CXW2	NSR
CSL	NCW
浄化王x	FCXT
CRN	NK-USR
KGRN	FCK
VRC	KN-RT
KBR1	ソフィール
HS-P	VRC
SGCX	FCK
SGCN	GPU
CMN	CXP
KGR2	

第33回全国浄化槽行政担当者研究会の報告を終えて

検査部検査第一課 課長補佐 吉田 恵也

昨年の10月に茨城県土浦市で全国浄化槽技術研究集会と併催されました、全国浄化槽行政担当者研究会にて『東日本大震災における宮城県の浄化槽被害状況の報告と今後の課題』と題して、報告をいたしました。

環境省から委託を受けて実施した、東日本大震災浄化槽被害状況緊急調査の概要から説明し、被害状況の集計結果および被害実態の代表的な事例を取上げ、4項目(地形の変形による影響、揺れと被害の関係、液状化の被害、津波による被害)に分類し、調査時に記録した写真および図表を示しながら報告いたしました。また、調査結果等から浮び上がってきた今後の課題についても、僭越ながら提言させていただきました。

報告にあたって、全面的に協力をしていただいた検査センター所長を始め、緊急調査に携った協会職員の皆のお陰で、無事に報告することができました。

最後になりますが、震災発生から間もない4月下旬からの緊急調査でしたが、自らも被災なさって大変な状態にも関わらず、快くご協力をいただきました協会会員の浄化槽保守点検業者の皆様、調査対象地区の市町の行政担当者様、調査対象施設の浄化槽管理者様に深く感謝申し上げますと共に、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

< 研究報告 >

合併処理浄化槽における消毒効果の確認

検査部検査第二課 技師 菊池 友文
技師 千葉 幸徳

1. 研究背景

残留塩素¹⁾が検出されれば消毒効果があると判断され、大腸菌群数が 3.0×10^3 個/ml以下に抑えられている²⁾といわれている。しかし、実際に大腸菌群数から消毒効果を示すデータは少ない。そこで今回は小型合併処理浄化槽を対象に、消毒前後における大腸菌群数の減少から消毒効果を確認した。

2. 調査概要

調査対象：小型合併処理浄化槽
(10人槽以下の一般家庭)
処理方式：性能評価型7基・構造例示型1基の計8基
測定機器：pH計・DO計・ORP計・残留塩素計・イオンクロマト

採水箇所ごとの測定項目

	一次移流口	消毒前	消毒後
残留塩素	-		
大腸菌群数	-		
BOD			
SS	-		-
NH ₄ ⁺	-		-

3. 消毒前後の残留塩素及び大腸菌群数について

表-1に消毒前後の残留塩素及び大腸菌群数を示した。

- (1) 消毒前でも残留塩素が検出された。
- (2) B・D施設においては残留塩素が消毒前後で逆転していたが、すべての施設で残留塩素が検出された。
- (3) 消毒後の大腸菌群数では8基中7基が 3.0×10^3 個/ml以下に抑えられていた。
- (4) さらに7基中5基は消毒後の大腸菌群数が0個/mlであった。
- (5) E施設は大腸菌群数の減少はみられたが 3.0×10^3 個/ml以下に抑えられていない。

以上のことから残留塩素が検出されても大腸菌群数が 3.0×10^3 個/ml以下になるわけではないことがわかった。残留塩素には殺菌力が強い遊離塩素と遊離塩素に比べて殺菌力が弱い結合塩素³⁾があり、これらの塩素形態により大腸菌群数の減少に違いがでたと考えられる。

4. 消毒前後の遊離塩素と結合塩素について

表-2に消毒前後の遊離塩素及び結合塩素を示した。

- (1) 大腸菌群数が 3.0×10^3 個/ml以上のE施設において遊離塩素は0.10から0.13、結合塩素は0.11から0.15に増加していた。
- (2) 残留塩素が逆転していたB・D施設においては、遊離塩素と結合塩素の変化がみられなかった。
- (3) B・D・E施設は共通して、遊離塩素と結合塩素それぞれの増加が0.1以下で、消毒後の大腸菌群数が0個/mlにならなかった。

以上のことから遊離塩素と結合塩素の塩素濃度の影響によって大腸菌群数が減少しにくいと考えられた。

表 - 1 消毒前後の残留塩素及び大腸菌群数

施設名	残留塩素		大腸菌群数(個/ml)	
	消毒前	消毒後	消毒前	消毒後
A	0.10	0.97	1.2×10^2	0
B	0.24	0.11	4.3×10^3	2.61×10^3
C	0.07	0.68	6.6×10^2	0
D	0.04	0.03	2.2×10^2	3.5×10^2
E	0.21	0.28	1.2×10^4	5.6×10^3
F	0.20	6以上	1.5×10^3	0
G	0.43	0.96	2.9×10^3	0
H	0.12	1.16	2.3×10^3	0

表 - 2 消毒前後の遊離塩素及び結合塩素

施設名	遊離塩素		結合塩素	
	消毒前	消毒後	消毒前	消毒後
A	0.03	0.13	0.07	0.84
B	0.13	0.08	0.11	0.03
C	0.06	0.39	0.01	0.29
D	0.02	0.02	0.02	0.01
E	0.10	0.13	0.11	0.15
F	0.12	0.74	0.08	5.26以上
G	0.30	0.75	0.13	0.21
H	0.08	0.55	0.04	0.61

遊離塩素・結合塩素の塩素濃度が変化しにくい要因に NH_3 による影響が考えられる。

結合塩素は NH_3 と関係しており、塩素が NH_3 と反応することで殺菌力がある NH_2Cl (モノクロラミン)・ NHCl_2 (ジクロラミン) と殺菌力が期待できない NCl_3 (三塩化窒素) がある⁴⁾。他に遊離塩素、結合塩素の塩素濃度変化を妨げる要因として SS・BOD が挙げられる⁵⁾。

5. BOD・SS・ NH_4^+ について

表-3 に一次移流口、消毒前後の BOD 及び消毒前の SS, NH_4^+ を示した。

(1) 残留塩素濃度の変化がほとんど

みられなかった B・E 施設において NH_4^+ も高い値を示していた。

しかし D 施設の NH_4^+ は低かった。

(2) E 施設は一次移流口と消毒前の

BOD に変化がみられなかった。

また大腸菌群数が高いことから

生物処理がうまくいっていない

と考えられ、これにより残留塩

素濃度の変化がみられなかった。

表 - 3

一次移流口、消毒前後の BOD (mg/l) 及び消毒前の SS (mg/l), NH_4^+

施設名	一次移流口	消毒前	消毒後	SS	NH_4^+
A	3.4	2.7	0.2	5.2	13.8
B	25	5.6	8.4	8.0	18.8
C	26	6.2	4.9	2.0	1.1
D	13	5.5	5.8	2.0	0.6
E	28	28	22	4.0	31.9
F	120	16	2.8	3.2	7.2
G	43	24	21	46.0	2.6
H	56	34	5.4	15.2	7.5

(3) SS の値に関係なく残留塩素濃度に変化がみられ、大腸菌群数の減少がみられた。

以上のことから今回の調査では SS, NH_4^+ は必ずしも残留塩素の濃度変化に影響しているわけではないと考えられた。

6. まとめ

今回の調査において以下のことが分かった。

- ・ 調査施設 8 基中 7 基では、消毒後の大腸菌群数は放流基準 3.0×10^3 個/ml 以下を示した。
- ・ 残りの 1 基では一次移流口から消毒前までの処理工程において BOD の除去がみられなかったため、残留塩素が検出されても大腸菌群数が 3.0×10^3 個/ml 以上で遊離塩素と結合塩素の増加が 0.1 以下であったと考えられる。
- ・ 今回の調査では消毒直前までの段階で BOD の減少がみられれば、消毒後で残留塩素も検出されやすくなり、より確実に大腸菌群数を 3.0×10^3 個/ml 以下に抑えようと考えられる。

参考文献

- 1) 水の消毒 8.4 水中における塩素の形態 P 78 参照
- 2) 第 41 回実務セミナー「各種消毒装置の特徴と運転管理方法」
5.3 残留塩素と大腸菌群数の関係 P 48 参照
- 3) 水の消毒 8.6.2 結合塩素の消毒力 P 93 参照
- 4) 水の消毒 8.4 水中における塩素の形態 P 78~81 参照
- 5) 水の消毒 6.4.4 懸濁物質の影響 P 52 参照

会員の動き (平成23年8月～12月)

退会

[平成23年8月9日]
正会員
大河原清掃社(廃業のため)

移転

[平成23年8月1日]
正会員
フジクリーン工業(株)東北支店

新住所
〒980 0804
仙台市青葉区大町二丁目2 10
住友生命仙台青葉通りビル8階
電話 022 212 3339
ファックス 022 212 3363

[平成23年12月1日]
正会員
(協業)石巻廃棄物処理センター

新住所
〒986 0853
石巻市門脇字明神1 37
電話 0225 93 3788
ファックス 0225 93 3789
〔電話、ファックス番号に変更はございません〕

訃報

(株)エコサーブ 齋藤 勇喜 相談役が昨年9月25日(日)に逝去されました。
(享年90)
齋藤相談役には、当協会の前身である(社)宮城県環境衛生整備協会の理事として事業推進に大きく貢献をいただきました。これまでのたくさんのご功績に敬意を表すとともに、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
なお、通夜、葬儀は近親者の方のみで執り行われ、「お別れの会」が11月13日(日)に加美町サンパレスマルトにおいて行われました。

今後の会議等スケジュール(予定)

平成24年3月15日(木)	平成23年度第3回三役会
平成24年3月22日(木)	〃 第3回定期理事会
平成24年5月21日(月)	平成24年度監査
平成24年5月21日(月)	〃 第1回三役会
平成24年5月24日(木)	〃 第1回定期理事会
平成24年6月15日(金)	〃 第4回総会

事務所復旧工事について

昨年の3月11日と4月7日の地震により、当協会事務所も大きな被害を受けましたが、お蔭様をもちまして、昨年末に建物内の修復工事が終了いたしました。

なお、外壁等につきましては、3月いっぱいでの終了を目途に現在、工事を進めております。

引き続き皆さまにはご不便をおかけしますが、よろしくお願ひいたします。